邪馬台国と前方後円墳時代のはじまり
ー松江市域の古墳時代前期ー

平成２５年５月１９日（日）
松江市史講座
島根県埋蔵文化財調査センター
池淵　俊一

1．はじめに

2．古墳時代のはじまりー卑弥呼と箸墓古墳ー

3．松江における古墳の出現

4．方墳の世界　荒島古墳群と寺床1号墳

5．海人の墓　奥才古墳群

6．出雲における前方後円墳の出現

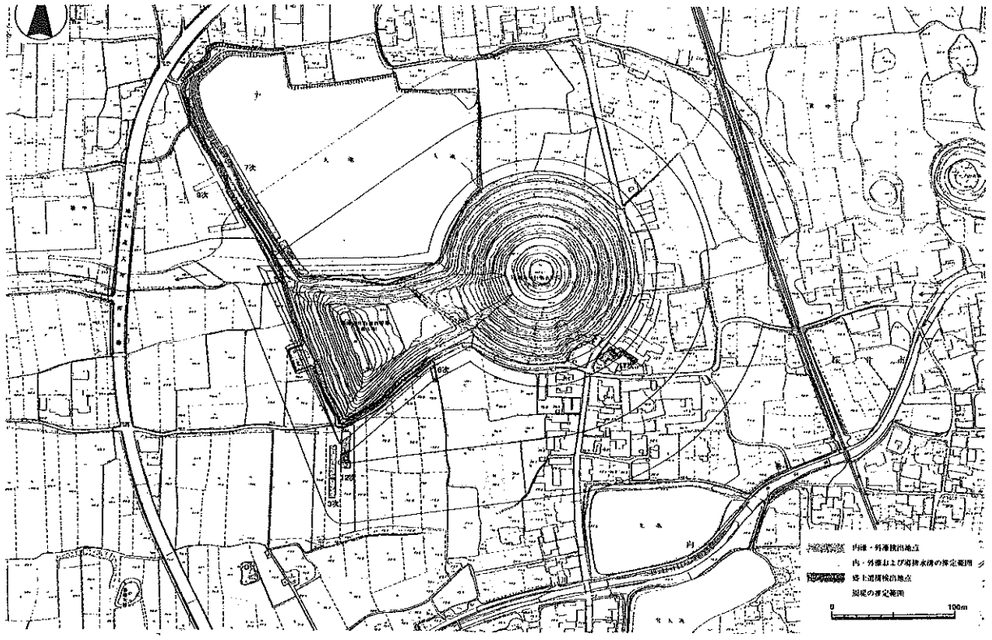
7．廻田1号墳出現の意義

8．おわり

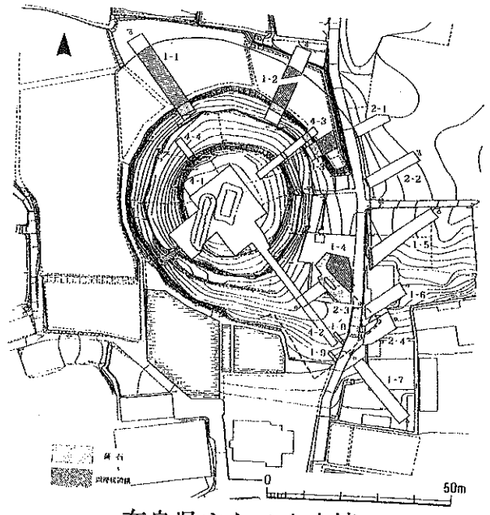
①

関連年表

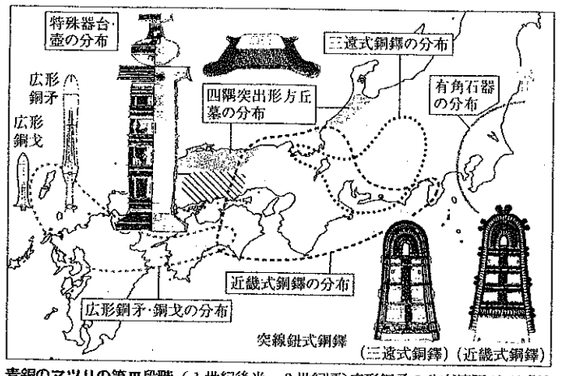
年代	時代	できごと
紀元前		
一一、〇〇〇	縄文時代	弥生文化が北九州から日本海沿いに出雲へ伝わる（出雲市・原山遺跡、松江市・西川津遺跡）。
五〇〇	弥生時代前期	日本海岸沿いに渡来系の人々のムラが形成される（松江市・古浦遺跡）。
一〇〇	弥生時代中期	この頃出雲で玉作りが開始される（松江市・西川津遺跡）。 この頃、Ⅱ（外縁付鈕）式の銅鐸が畿内から伝わる（出雲市・荒神谷遺跡、雲南市・加茂岩倉遺跡・鹿島町志谷奥遺跡）。 出雲型銅剣が製作される（出雲市・荒神谷遺跡）。 北九州から銅矛が伝わる（出雲市・荒神谷遺跡）。Ⅲ（扁平鈕）式の銅鐸が製作される（雲南市・加茂岩倉遺跡）。 この頃から出雲市周辺が、九州や朝鮮半島と交流を深める。 出雲に四隅突出型墳丘墓が出現する。
紀元後		
五〇	弥生時代後期	この頃荒神谷・加茂岩倉遺跡で青銅器の大量埋納が行われる。 この頃、山陰各地で盛んに四隅突出型墳丘墓がつくられる（安来市・仲仙寺、安養寺墳墓群、鳥取県阿弥大寺墳墓群）。 出雲市西谷3号墓がつくられる。 松江市玉湯町で玉生産がはじまる（松江市玉湯町）。
二五〇	弥生時代終末期 古墳時代前期	山陰の土器が全国各地に広まる（福岡・西新遺跡、奈良・纒向遺跡・太田遺跡）。 古墳が出雲に出現する（雲南市・神原神社古墳）。 出雲東部に全国最大級の大形方墳が継続的に営まれる（安来市・大成古墳、造山1・3号墳）。 出雲大社境内遺跡で、玉を使った祭祀がおこなわれる。 出雲産の玉が全国各地に流通する（京都・園部垣内古墳）。
四〇〇	古墳時代中期	松江市・石屋古墳が築造され、人物埴輪が樹立される。 出雲各地で玉作りが盛んに行われる（安来市・大原遺跡、松江市・大角山遺跡）。
五〇〇	古墳時代後期	「見返りの鹿」をはじめとする形象埴輪がつくられる（松江市・平所遺跡）。 出雲独自の子持壺が成立する（松江市・向山古墳）。 この頃、出雲最大級の古墳が出雲の東西に築かれる（松江市・山代二子塚、出雲市・大念寺古墳）。 この頃から玉作遺跡が玉造周辺に集中し盛んにつくられる（松江市・出雲玉作跡）。 「額田部臣」銘大刀がつくられる（松江市・岡田山1号墳）。 金銅装の大刀や馬具が出雲西部の首長墳に副葬される（出雲市・上塩冶築山古墳）。 子持壺が出雲東部に広まる（松江市・団原古墳、東出雲町・島田池遺跡）。 出雲東部に大形の方墳が出現する（松江市山代方墳）。
六〇〇		
六四五	古墳時代終末期 大化元	乙巳の変（大化改新）が起こる。



奈良県箸墓古墳

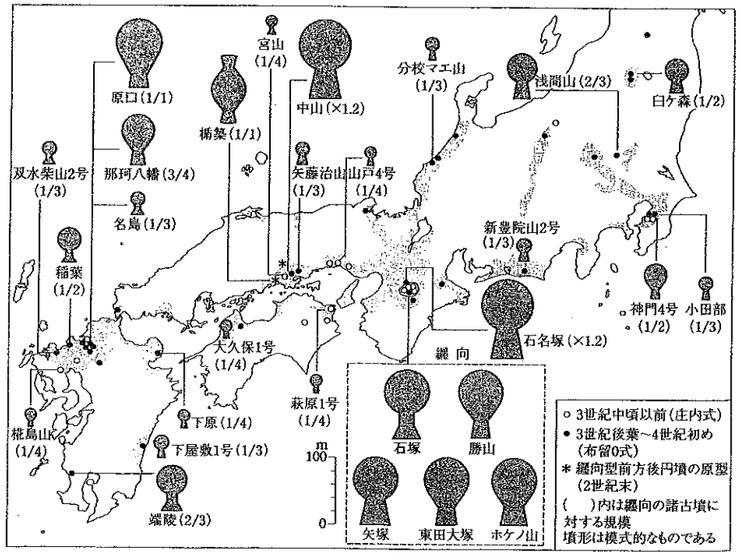


奈良県ホケノ山古墳



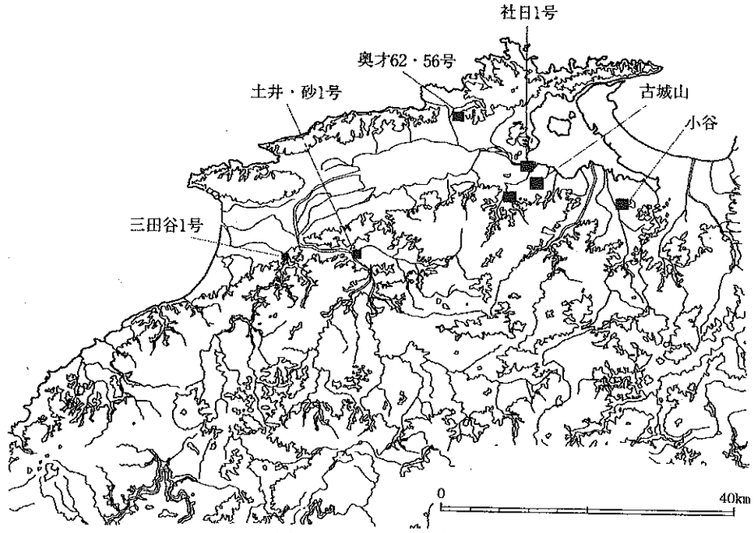
青銅のマツリの第Ⅲ段階（1世紀後半～3世紀頃）広形銅矛の分布範囲がイト「倭国」であり、近畿式銅鐸圏がそれに対峙していた

弥生時代後期の各地のシンボル

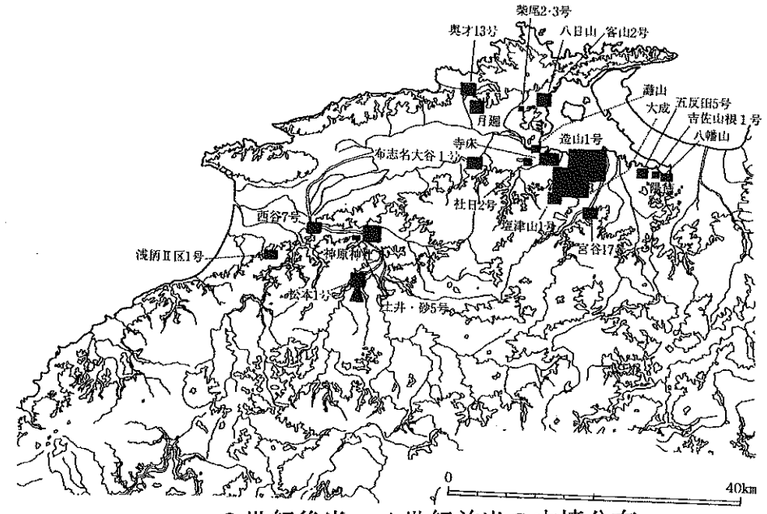


【纒向型前方後円墳】前方後円墳の起源である「纒向型」前方後円墳は二世紀末の楯築墳丘墓をもとに、三世紀前半のヤマト王権の王都纒向で誕生した。その縮小規格のものが、王権に加わった各地のオウ(王)たちにもとり入れられていった。庄内式のものが、中・東部瀬戸内や北部九州に集中し、畿内系土器がめだって流入する地域(簿地のゾーン)とも重なる点に注意

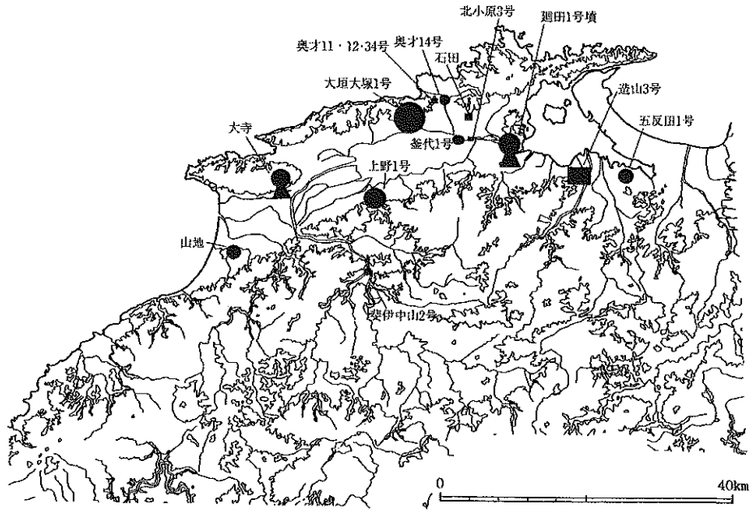
定型化以前の前方後円墳



3世紀中頃の古墳分布



3世紀後半～4世紀前半の古墳分布



4世紀後半の古墳分布